

2024 年 6 月吉日

各位

親和中学校のスクール・イノベーションについて

学校法人親和学園

理事長 山根耕平

はじめに

平素は親和学園の教育研究の運営にご理解とご支援を賜り、まことにありがとうございます。心よりのお礼と感謝を申し上げます。

さて、親和学園では、この急速に変化する社会に対応すべく親和中学校に「女子部と共学部の併設」という大きな改革となる、いわば「スクール・イノベーション」を行います。ご存知ように、親和学園は 1887（明治 20）年に創立された親和女学校を創始として、今年、創立 137 年を迎えた、神戸で有数の伝統ある女学校です。

しかし、今日、テクノロジーの目覚ましい革新もあり、社会は急速に変化しています。加えて日本では少子化が加速度的に進行しており、教育機関をめぐる環境は厳しさを増しています。このような状況のもと、私たちは新たな発想のもとに未来を創造する教育システムが要請されていると認識し、親和学園の教育理念は堅持しながらも、改めて親和教育の今日的なパーパス（存在意義）を確認し、新たな教育を実現する学校づくりに着手します。創立以来の大きな改革に取り組みます。長い歴史と生徒・保護者・同窓生の方々の心情を考えると重く厳しい判断でしたが、それでも親和学園の未来を切り開くべく新たな学校づくりに挑戦することに理解を得たいと考えています。今後も関係各位に、そして社会の皆様にご理解していただくべく誠実に対応して行く所存です。

以下、今回の改革の趣旨・目的等について詳しく説明させていただきます。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

<親和中学校:女子部&共学部の併設～伝統と創造～>

(1) 加速度的に変化する社会

①世界の状況

近年、新型コロナウイルスのパンデミック、ロシアとウクライナ間の戦争、ハマスとイスラエル間の戦争、気候変動による災害の頻発等々、世界は混沌としその変動性 (volatility)、不確実性 (uncertainty)、複雑性 (complexity)、曖昧性 (ambiguity)、いわゆる VUCA が高まっています。同時に、世界的な規模で民主主義の衰退も顕著になってきており、今日、人類はかつてない困難に直面していると言えます。

「教育は時に敏感である」と言われますが、このような VUCA の時代、改めて教育の在りようが問われています。いっそう適切に言えば、現代の困難な時代を生き抜き未来を切り拓く人間の育成という教育の「パーパス（存在意義）」が問われていると思います。具体的に言えば、一方で人種・国籍・性別・文化等の違いを越えて、他者と協働して世界や社会の課題解決に取り組む人材の育成とともに、他方で生成 AI に代表されるテクノロジーの進歩を

人間（その社会）のウェルビーイングに最適化する人材の育成という 2 つの役割が教育に求められていると考えます。今日、その役割は本当にかつてなく多様で多義的になってきました。この度の親和中学校のイノベーションもこうした社会的な発展動向への回答の一試みでもあります、

さて、この変化の速い時代ということでは、ChatGPT を開発したオープン AI のサム・アルトマン（最高経営責任者）が「**AI の進化とは暴走列車であり、なにものも止めることはできない**。もしかしたら、これは天国まで伸び続ける木のようなものかもしれない。」と述べたように、私たちの気づかないところで、社会はとてつもないスピードで変化しているのではないのでしょうか。こうした社会においては「変化に素早く適応しないことほど大きなリスク要因はない。」（ジョン・コッター）とも言われます。

また、最近、ドイツの哲学者マルクス・ガブリエルの「以前より日本は『90 年代的』になっているのではないのでしょうか。・・・日本は、まだ自身を、21 世紀に置いていないからです。日本は今でもある程度、90 年代の恩恵を享受することができていて、今後も、やはり 90 年代の遺産によって進み続けるでしょう。・・・私は、日本は今こそ、ジャンプするべき時だと思います。」という言葉を目にしたとき、日本の教育は時代の変化に対応しているのか。この変化の速い時代を 20 世紀の教育遺産で凌いできたのではないか。そう思ってしまった。教育の分野においても未来に向かって「ジャンプするべき時」だと思います。

ただ、本来的に時間を要する教育という営みが、社会的に要請されているパーパスを確認（必須の作業）して変化に迅速に対応できるのか。いや、教育という営みにおいて迅速な対応自体が適切なことなのか。さらには、テクノロジーの進歩によって、社会(教育も含めて)がすべて最適化されると無批判的に考えてよいのか。この問いに答えることは、考えられる以上に、容易なことではありません。とはいえ、現場で子供たちの教育に」日々、携わる者として真摯に答えていかなければならない問いであることも理解しています。親和中学校のこの度のイノベーションは、先にも述べたように、こうした時代的な問いへの回答の一つの試みなのです。

②日本の少子化

一方で、少子化が加速度的に進む今日の状況では、教育機関の存続をも脅かす事態となっています。2023 年の出生数は過去最少の約 72.7 万人（厚生労働省 2024 年 6 月 5 日発表）となり、近い将来の 70 万人割れも視野に入ってきました。現在の 12 歳児（中学入学年齢）が 100 万人超えであることを考えれば、今後 10 年余りで約 30 万人の減少となり、この急激な人口減少は保育園・幼稚園・こども園から大学までの保育・教育機関にとって深刻な問題となっています。「**人口構造だけが未来に関して唯一の予測可能な事象である。**」（ピーター・ドラッカー）からです。とりわけ、この近未来の現実女子だけを対象とする女子校にとっては死活問題と言えます。この度の親和中学校のイノベーションはこうした現実への対応でもあります。

このように、2 つの意味で、教育(機関)は対応を求められていると考えています。その一

つは、変化の時代が要請する新たなパーパスのもとに、どういう教育を展開しその質的向上を図るのかという問いへの回答（対応）であり、他は少子化の厳しい現実にどのように対応し、学園をどのようにして存続・発展させるのかという問いへの回答（対応）です。

（2）経営と教育は表裏一体

学園は営利を目的とする会社ではありません。一部を共学化して市場を拡大するだけでよいわけではありません。学園は教育機関であり、経営を教育と切り離すことはできません。経営と教育は表裏一体の関係にあります。教育なき経営は空虚ですし、経営なき教育は存続できません。この意味において、この度の改革は教育改革であり経営改革なのです。教育の改革なくして親和の未来を切り拓くことはできないと強く認識しています。

（3）変化する社会への対応

①親和中学校の新たな学校づくりの方針

親和学園（ここでは親和中学校・親和女子高等学校を指示する。以下、親和中高と言う。）は、1887（明治20）年に創立された親和女学校を創始として、今年で創立137年を迎えました。創立以来、校祖友國晴子による建学の理念でもある「**誠実**」「**堅忍不拔**」「**忠恕温和**」という3つの校訓を継承し、今日まで社会に有為の人材を輩出する歴史を刻んできました。今、思い起こすべきは、この長い歴史を刻むことができた理由の一つが親和学園の教育が変化する時代のパーパスにその都度、適切に対応してきたことにある、ということです。その基点は校祖の教育理念にあります。校祖は当時の社会的なパーパス（存在意義）を深く認識して、女子教育に注力したのです。何人かの卒業生に宛てた手紙に校祖の時代の要請に応えるとともに時代を超えた先見的な知見を垣間見ることができます。「**折々は社会にも出て人の為に尽くし、内外共に有用の人となりて御働きなされんことを祈り候。**」校祖は明治時代においてすでに社会で活躍し社会に貢献する女性の育成を目指していたのです。校祖は、また、明治44（1911）年には文部省の高等女学校令に応え社会的ニーズのある「**親和実科高等女学校**」を、さらには大正12（1923）年には「**親和高等技芸学校**」を創設しています。校祖の教育については、ここで追記しおきたいことがあります。校祖は教師としての生涯のすべてを学校で過ごし、「同心同行の教育」を実践されたが、分かりやすく言うと、日々、生徒と誠実に向かい合い、その人間的な関わりを、まさに“**always in human touch**”を教師としてのミッションとしていました。この精神は、今後も継承しなければならないと強く認識しています。

今日、教育機関（とくに私立学校）は、加速度的に進行する少子化により生徒確保をめぐっての「レッドオーシャンの世界」の只中にあり、まことに厳しい状況に直面しています。それでも、いや、それゆえにこそ、親和学園では、建学の精神を堅持しながら、時代の変化に対応し、その時代のパーパスを確認しながら、「進化」を続けています。社会の変化に対応せず、同じところにとどまっていたら、社会から取り残されてしまうからです。私たちはつねに高い目標を掲げながら前進すること、さらに言うと、変化の一步先をいくことが必要だと考えています。もとより変化の速い時代だからこそ私たちの原点である基本理念とし

での建学の理念を確認する。改めてこの作業が起点となつての改革であり進歩であることを強調しておきたいと思います。

親和学園では、このような認識から 2024 年度に親和中学校では時代の要請に応える新たな改革を行いました。中学校に「スーパーサイエンスコース」「スチーム探究コース」「グローバル探究コース」の 3 つのコースを開設しました。時代が要請する、デジタル化・グローバル化する社会に対応する人材育成が目標です。いわゆる「サイエンスマインド」と「グローバルマインド」の育成、そして 2 つのマインドを統合する「人間力」の育成を目指しての教育改革です。また同時に、2024 年度から高等学校も「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受けました。この結果、中学からの「スーパーサイエンスコース」が高校の SSH へとつながり、この分野における中高 6 年間の一貫教育が可能となったことも特記すべきことです。

②女子部と共学部の併設～両利きの教育システム～

2025 年度開設の女子部と共学部は、上記のような現状認識から急速に変化する時代に対応する企画です。新たな学校づくりの試みであり、いわば未来の教育への挑戦と創造なのです。生徒ひとり一人が人として尊重され、とりわけ、その存在と成長の可能性が尊重されるインクルーシブ（包摂的）な教育を実践する学校づくりへの挑戦なのです。

私たちは、女子部と共学部の併設によって、これまでの親和教育の教育理念と伝統を堅持しながら、社会の発展動向とその課題に応える新コースのもとに、理系教育やグローバル探究の教育を推進し、そこで培われた専門性と人間力を生かしてあらゆる分野で活躍できるリーダーの育成を目指しています。そのためのインクルーシブ教育を実践して参ります。

なお、親和中学校における女子部と共学部の併設は、あまり他に類は見ない教育システムですが、一方で長い歴史で蓄積された親和教育のさらなる「深化」を図るとともに、他方で社会の教育課題に応える新規の教育を「探索」する、いわゆる「両利きの教育システム」として機能させ発展させていく所存です。

なお、女子部と共学部の併設は、中学 1 年生からスタートし、高校卒業時まで進行する中高一貫のシステムです。

(4)終わりに:新しい学校づくりへの挑戦

先にも述べましたが、親和学園は、1887（明治 20）年に創立された親和女学校を創始として長い歴史を刻み、今年、創立 137 年を迎えています。親和学園ではこの変化の速い時代において教育のパーパス（社会的な存在意義）を確認した上で、更なる進化をすべく「女子部と共学部の併置」という大胆な目標を掲げ、新たな未来を切り拓いていく所存です。親和学園の歴史に新しいページを刻む、まさに新しい学校づくりへの挑戦となります。この変化の時代を生き抜き、明日の社会を担う子どもたちのために教育の新たな可能性に挑戦するスクール・イノベーションであることにご理解を得たいと思います。

改めて、皆様におかれましても、親和中学校が新たな学校としてスタートすることにご理解とご支援をお願い申し上げます。学園を挙げて皆様のご期待に応えていく所存です。